

(様式1・小学校用①)

令和6年度 学 校 評 価 報 告

草加市立清門小学校

(令和7年2月7日作成)

1 学校教育目標 なかよく (徳)・・・笑顔であいさつのできる子 かしこく (知)・・・進んで学習する子・確かな学力のある子 たくましく (体)・・・やりとげる子・きたえる子 目指す学校像：「個性輝き 笑顔あふれる清門小」 キャッチフレーズ：「勢い」と「潤い」のある「カラフル」な清門小	
2 重点目標・努力目標 (1) なかよくの具現化 ・基本方針 「いじめはしない、させない、ゆるさない」 ・「さわやかなあいさつ」の推進 ・豊かな心の育成「道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実」 (2) かしこくの具現化 ・幼保小中一貫教育の推進の継続 ・草加っ子の学びを支える授業の5か条の定着 ・指導方法の改善・学習規律の確立 ・読書の励行、学校図書館の十分な活用 ・家庭学習の定着 ・児童の主体的で深い学びを実現するための授業改善及び「一人一公開授業」の実施 (3) たくましくの具現化 ・体育授業時の運動量の確保 ・さわやかタイム ・家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」	3 前年度の成果と課題 成果 ○校内研究において児童の自己肯定感・自己有用感の表れが見えてきている。 ○定期的に生徒指導部会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会を開催し、諸課題の早期発見・早期解決、継続的な指導に努めている。市教育委員会、子育て支援センター等との連携、スクールソーシャルワーカー、さわやか相談員のいじめ防止対策委員会への招致、スクールカウンセラーの積極的な活用など、関係諸機関との連携を推進している。 課題 ●全教職員が心身ともに健康で持続可能な教育活動の実施のため、働き方改革を進めて行く必要がある。 ●担当教師により、児童間にICTの習熟の差が出ないように教職員のICT機器の使用について、組織的に行っていく必要がある。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学 校 運 営 に 関 す る も の	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○働き方改革と児童の学びの保障を考えた学校行事が展開されている。 ●教職員の共通理解・共通行動をさらに徹底する必要がある。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○全クラスで学級活動を充実させ、児童の自己肯定感・自己有用感を育む授業研究を進めている。 ●ICTの活用について、教師間に差があることが課題である。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○学校と保護者が必要とする学校保健委員会等の学校保健活動を、適切に実践している。

④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○安全上修繕を必要とするところについて、教育委員会に速やかに連絡し、対応することができている。 ○「個人情報持ち出し簿」が適切に活用されている。 ●児童のタブレットパソコンの扱い方について、教職員・児童のさらなる共通理解が必要である。
⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会において、学校の諸課題を熟議するとともに、教育活動を参観していただき、ご意見を学校運営に取り入れている。 ○オンラインによるアンケートで、広く保護者の意見を取り入れ、素早く教育活動の改善を行っている。 ●保護者が気持ちよく活動できるPTAの在り方や地域とのつながりについて引き続き検討していく必要がある。
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○小中でのあいさつや野鳥観察会等の合同実施や連絡協議会を進めることができた。 ○幼保小で交流を進め、来年度入学する園児に小学校入学に対する意欲を持たせることできた。 ●相互に負担感のない交流を進めていかなければならない。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童につけさせたい力を確認しながら教育活動を進めることができた。 ●多様な働き方の観点を考慮しつつ持続可能な教育活動にしていかなければならない。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画に沿って、各教科の学習を滞りなく進めることができた。 ○一人ひとりのつまずきや課題の把握に努め、個に応じた支援を充実させた。 ●外部人材の活用を進めるため、さらに地域の協力を得ながら魅力ある授業作りを進めていかなければならない。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「全校一斉道徳授業」「友だちの日」「人権週間」「障がい者の日の取組」など、学校全体で道徳教育を推進することができた。 ●各教科・領域、学校行事に道徳教育のねらいを明確にしていくことや「清門小スタンダード」のさらなる定着を進める必要がある。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○担任とALTが協力して、児童が主体的に活動する学習を展開している。児童の表現力が向上している。 ●英語だけでなく、世界の国々の文化に関心がもてるような工夫を行っている
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「子どもまつり」、「縦割り活動」や「あいさつ運動」を工夫して実施することで潤いのある学校生活となった。 ○校内研究において全校で「特別活動」に取り組み、教員一人一人の指導力向上を図ることができた。 ●委員会活動やクラブ活動について、さらに児童が意欲的に活動できるよう、内容を見直していく必要がある。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用する発表を系統的に指導することで児童の発信力が向上した。 ●他教科との関連等を含め、内容の精選・充実が必要である。

⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止対策委員会では、外部有識者も交え具体的な協議を行っている。 ○生徒指導部会では、校内の課題に対して迅速に対応することができている。 ○教育相談部会では、報告だけでなく、必要に応じてケース会議を行い、全校で共通した対応を行っている。 ●児童間トラブルを児童が自ら解決できるようにする学校の取組を保護者に伝える必要がある。
⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスポートについて、継続して取り組むことで、児童自身が自己の成長を振り返る機会となっている。 ●各教科・領域、特別活動との関連をさらに明確にしていく必要がある。
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○通常学級との交流学习や、特別支援学級だより等を通して学校全体に特別支援学級の様子が伝えられている。 ○特別支援学級では、個別の指導計画・支援計画に基づき、個に応じたきめ細かな指導・支援、教育がなされている。 ○特別支援教育コーディネーターを中心に、関係諸機関と連携・協力し、支援体制が充実できた。 ●通常学級に在籍する特別なニーズを要する児童への支援を充実させていく。
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校図書館だより」やブックランチなど、読書や本に親しむための工夫を積極的に行っている。 ○学校図書館の利用を計画し、すべての児童が常に本を手元に置くことができている。 ●クラス間に貸し出し数の差があるため、児童に読書に対する意欲を向上を全教職員の課題していく必要がある。
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な周辺機器を整備し、効果的な学習を行うことができている。 ●児童に対する情報モラル教育、保護者に対する啓発が大きな課題である。
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「人権週間」を中心に、全校で人権に関する教育が推進されている。 ○毎年、教職員の校内研修を実施することができている。 ●多様化する人権問題について、その正しい理解と指導の充実を図っていく。

領域	評価項目	評価の観点	評	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・読書タイム(親子読書デー等) ・計算タイム ・国語タイム ・家庭学習チャレンジ週間 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各種学力学習状況調査の結果を分析を綿密に行い、児童の課題把握に努めることができた。 ○読書100冊達成者には校長が直接表彰を行うなど多くの取組を行っている。 ○家庭学習ノートを掲示することで、どのような家庭学習ができるのか多くの児童がイメージを持つことができた。 ●計算タイムや国語タイムは、児童の実態把握を確実にし、計画的に実施できるようにしていく必要がある。
	体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやかタイム ・体力向上レベルアップカード ・持久走の取組 ・サッカー大会 ・相撲教室 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○相撲教室の取組では、各教職員が真剣に児童の相撲への意欲を向上させる指導を実施し、市内の大会においても優秀な成績を収めることができた。 ○体育の授業では、場やルールの工夫などで運動への意欲化を進めることができています。 ●児童の体力低下を防ぐために、様々な時間を柔軟に設定し、さらに運動の機会を設ける必要がある。
	学校応援団	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校の見守り ・PTA活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各町会、平成塾、関係団体、PTAと連携・協力した旗振り等を実施し、児童の登下校の安全確保を充実させている。 ●保護者や地域に負担のない、学校教育への関わり方について、話し合いの場を増やす必要がある。 ●学習支援に関する活動の実施について、検討が必要である。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・定期的に生徒指導部会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会を開催し、諸課題の早期発見・早期解決、継続的な指導に努めている。市教育委員会、子育て支援センター等との連携、スクールソーシャルワーカー、さわやか相談員のいじめ防止対策委員会への招致、スクールカウンセラーの積極的な活用など、関係諸機関との連携を推進している。
- ・学校評価アンケートにおいて、本校の教育活動は、学校教育目標「なかよく・かしこく・たくましく」に基づいて「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」と答えた保護者は97.6%である。これからも、学校からの情報発信をさらに充実させ、地域・家庭との連携を深めながら信頼される学校を目指していく。
- ・「夢や希望を持ち、学び続ける子どもの育成～自己肯定感・自己有用感・他者理解を育む学級活動の工夫～」をテーマとし、校内研究を実施し、その成果が表れてきている。
- ・様々な機会が児童がICTを活用した学習が進んできている。教職員もICTの効果的な使用方法について研修を深めている。
- ・学校行事を精選し児童の学びを充実させることができた。引き続き「児童の学びの保証」と「教職員の働き方改革」を両立させながら全教職員で取り組んでいく。
- ・授業時数の削減の中で学力向上を達成させていく具体的な方策を全職員が議論し実施していく必要がある。

6 次年度の改善策

- 新栄中校区の発表に向け、「幼保小中を一貫した教育」の研究を深化させ、地域全体で目指す子ども像を目指すため、「自己肯定感・自己有用感を育む授業づくり」を土台として、学校課題研究を推進していく。
- 担当教師により、児童間にICTの習熟の差が出ないよう教職員のICT機器の使用について、組織的に行っていく必要がある。
- 受け持つ学年により、教職員の負担感の差が出ないように、校務の調整をしていく必要がある。
- 全教職員が心身ともに健康で持続可能な教育活動の実施のため、働き方改革を進めて行く必要がある。